

<b>7月</b> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">例会 個人</span> <b>山行報告書</b>		報告者	江頭	参加 メンバー	ソロ
		報告日	8月		
山域	飛驒	山行日	09年07月18日(土)		
山名	御嶽山				
山行目的	トレーニング	コースタイム(天候:天気図記号)			
配布先	ルート図(地図を見て正確に)		07月17(金)雨 22:00 濁河温泉 23:00 就寝		
集会:10			07月18(土)雨 07:00 起床 07:30 登山口発 10:30 五の池小屋 11:00 小屋発 11:40 摩利支天 14:30 登山口着 (メモなしの記憶)		
山行:1 リーダー					
原紙:集 会担当者					
2.5万分の1地図:胡桃島(飯田)					
<p>トレーニングを兼ね、濁河温泉から御嶽山(摩利支天)を狙おう。夜からの雨は朝になってもしと。気がすまないが、別の一行が登山口に到着したのをきっかけに、その気になった。</p> <p>立派なつり橋を渡って、しばらく草木谷を下に見る。『ゴーツ』という川音が心地よい。登山道も小川の様相、なおかつご丁寧に木を敷き詰めてあるので、スリッパしないよう慎重に。</p> <p>暫くだらだら坂が、だらだらだらだらだらだら、つるっ、だらだらだらだら...我慢を重ねて行くと、&lt;湯の花峠&gt;の道標が目に残り、一旦荷をおろす。バナナを食らい、再びだらだら坂を行く...だらだらだらだら...</p> <p>&lt;お助け水&gt;の道標が目に入り、休憩を入れる。付近を探索したが、水場らしきものは見当たらなかった。このあたりから登山道に中程度の石がころがり始める。飛び石にして登ると退屈のぎになる。</p> <p>8合目を過ぎると森林限界、這い松が現れ始める。風当たりも強くなる。斜面をトラバース気味に切って飛驒頂上、五の池小屋の目の前に出た。</p> <p>雨具の中も汗の嵐なので、小屋で飲み物を買って、着替えさせてもらう。若い衆が今日からの登山客を迎える準備に忙しい。</p> <p>バナナをチャージして小屋を出る。2~30mは視界が開くので、ゆっくり摩利支天に向かうことにした。岩稜帯を行って摩利支天を独り占めに。</p> <p>小屋への戻り、『バタバタ』夏色の雷鳥だ。御嶽でお目にかかるとは思っていなかった。遠くで『ピピピ』声もする。親が前面に出て、敵の気を引いているのか『ズルッ』とコケたりしている。相当な役者だ、追いかけていけば今頃は奈落の底か。</p> <p>下山して雨具を畳んでいると、薄日が差してきた。</p>					
確認	<p>&lt;リーダー所見&gt;</p> <p>天候は恵まれなかったが自分なりの練習ができたと思う。濁河温泉が結構でした。</p>				
確認					
作成	<div style="border: 2px solid red; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;">             江頭 '09.07.27         </div>				